

医療問題研究会

遠隔ICU・アプリ開発・24時間見守り…

情報連携で在宅まで支援拡大へ

横浜市大・高木氏が講演

政策部は7月31日、「地域医療構想に資する遠隔医療の活用について」をテーマに、医療問題研究会を協会会議室とWEB併用で開催。講師に横浜市立大学附属病院・集中治療部部長の高木俊介氏を迎え、医師24名、歯科医師5名など計37名が参加した。

遠隔ICUとは

氏は、遠隔ICUは大規模病院（Hub施設）の遠隔ICU支援センターの専門医や経験豊富な看護師が人手不足の中規模病院（Spoke施設）Spokeは車輪の中心を繋ぐ細い棒が由来をサボットする仕組みと解説。横浜市立大学附属病院の支援センターは、院内外で合計61床をカバーし対応したが、導入から5年で夜間帯は約93%を支援センターが対応し、被支援施設からは「夜中の電話が100分の1に減った感覚」を憶えるなどシブシブな原因と評価された。働き方改革への貢献を詳述した。また、敗血症の死亡率が横浜市立市民病院で下がり医療の質が向上したと評した。

働き方改革にも貢献

氏は、遠隔医療の優位性を数値やデータで示し、現場の理解を得ることが遠隔医療の促進に必要と指摘。一方で阻害要因は従来の診療文化と異なるワークフローへの反発や、見守りを監視と捉えられる等があると指摘。また支援側の提案が受容され効果を生むには、病院間の信頼関係構築が重要であるとし、遠隔で毎日定例会を実施し看護師の顔と名前が一致する関係を構築しているとした。

遠隔医療と地域医療の連携

2040年以降在宅患者数が増加する中、急性期医療でサポートしたいと述べた。

事後抄録 歯科臨床研究会

明日から活かせる

歯周治療のヒント

杉原 俊太郎氏

「歯周治療のヒント」を協会会議室とWEB併用で開催。講師は神奈川歯科大学歯学部臨床科学系・歯科保存学講座歯周病学分野 講師の杉原俊太郎氏が務め、191名が参加した。

令和8年度診療報酬改定で、従来のSPT等は、歯周病継続支援治療へと名称変更されました。これは単なる名称の変更にとどまらず、従来の画一的なメインテナンスから、患者さん一人ひとりの病態やリスクに応じた「個別化された継続治療」へと、私たちの考え

【議長報告】
情勢討論のポイントとして、骨太の方針2026の閣議決定、改定個人情報保護法の成立、ゼロ税率実現への取り組みが

理事会だより

第32期第20回理事会 7月23日（木）

〈役員28名 出席23名（うちWEB6名）〉

情勢討論のポイントとして、骨太の方針2026の閣議決定、改定個人情報保護法の成立、ゼロ税率実現への取り組みが



請願署名へご協力を

協会では、来年2027年度の介護報酬改定に向けて「介護保険制度・介護報酬の抜本改善、大幅な処遇改善を求める請願署名」に取り組んでいます。前回の介護報酬改定では十分な引き上げがされず、訪問介護等の基本報酬は引き下げられ、介護事業所の倒産・廃業は過去最多となっています。

介護が崩壊すれば、医療と介護が補完し合う在宅医療も成り立ちません。医療従事者の立場、および将来介護保険を利用する可能性のある当事者の立場から、ぜひ署名にご協力をお願いいたします。

署名は『月刊保団連』9月号（9月中旬ごろ医療機関に到着予定）に同封いたします。

た。SPTは治療の終着点を取り上げました。残存ボケット、継続するBOP、骨吸収の進行度や全身因子などを総合的にスコア化することで、勘に頼らない「根拠に基づいた確かなSPT間隔の決定」が可能になります。

また、後半では「非外科治療の限界」に言及しました。深いボケットに対し、盲目的なSRPを漫然と繰り返すことは長期的な歯の保存において最適解とは言えません。再評価で限界を正しく見極め、適切なタイ

情報」を本人の同意なしに収集できるようになりました。厚労相は「不安や懸念の解消に取り組む」ための規則やガイドライン作成に主体的に関わるとしているが、本来であれば事前に国民の意見を幅広く収集すべきである。そもそもどれほどの国民がこの改定法が成立したことを知っているのか、疑問に思わざるを得ない。

地域医療対策部からは、5月30日に開催された第34回在宅医療・介護セミナーについての報告があった。当日の参加人数は現地、WEBを合わせて160名であり、BCP（事業継続計画）についてや、診療継続のための具体的な作成方法について講演とディスカッションが行われた。



講師の高木氏

10月18日（日）13時から、横浜をここの地下広場「新都市プラザ」にて「医療・健康フェスティバル」を開催する。例年好評を博しているこのイベントは第27回を迎える。昨年同様「お金の心配なく、安心して医療にかかれる社会へ」をメインテーマに、医療費の窓口負担「ゼロ」と「安心して医療を受ける。今回のテーマを来場者に認識してもらうこと、この情勢は、会員による医科・歯科の相談に加え、昨年に

の一部分外し、▽高額療養費制度の負担上限額引き上げ、▽高齢者の窓口負担拡大の検討（肌年齢測定等）を実施し、親しみやすい企画を

性を見つめ直すきっかけとしたい。

医療者と市民の交流・橋渡し

主張

医療・健康フェスティバルにご参加を！

入口として健康に関心を

画として、医療に関するアンケートへの回答を抽選に参加できる「くじ引」をもちの先生方など、会員の皆様の積極的な参加をお待ちしている。



講師の杉原氏